



先進都市現地調査 ～栃木市における歴史的建造物を活かしたまちづくり～

群馬県 県土整備部 都市計画課

平成30年11月29日(木)に、栃木県栃木市で群馬県都市計画協会主催の先進都市現地調査を実施しました。

■ 栃木市 歴史的町並み景観形成地区

栃木市は江戸時代、巴波川を利用した集荷や例幣使街道の宿場町として栄えていました。商都として栄えていた栃木市は蔵造りの街なみが広がっていましたが、昭和40～50年代に入ると、近代化の影響で蔵造りの建物は減っていきました。そのような中で、大通りや巴波川を中心に土蔵造りの建物や洋館等歴史的な街なみが数多く残っていたことから、こうした町並みを残そうと昭和50年代以降、歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組みはじめました。昭和63年には栃木県の『誇れるまちづくり事業』に指定され、大通りのアーケードや歩道橋の撤去、電柱の地中化、遊歩道等の整備や「町並み修景ガイドライン」に沿って歴史的建造物の修景を行うなど、市民と行政が一体となって歴史的町並み景観形成が進められてきました。

こうして整備された大通りや歴史的建造物は、市民団体のイベント等にも活用され、交流人口の増加や商業の活性化につながっています。

こうした市民と行政が一体となった取組みが評価され、平成21年には都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」を受賞しています。

現地視察では、ガイドさんと栃木市都市計画課職員のご案内のもと、修景事業等で整備した建物等を見学しました。古くからある建物以外にも、銀行やカフェなどの店舗も景観に配慮したデザイン、色合いになっており地区全体が良好な景観づくりに取り組んでいる様子が伺えました。

良好なまちづくりを進めていくためには、官民が一体となり地域を盛り上げていくことが重要なのだと改めて思いました。



修景された大通り沿いの建物



市民団体により運行されている遊覧船



景観に配慮したデザインのカフェ

